

精密工学会賞 第1回 (2005年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 田中 克敏 氏

田中克敏氏は、30年程前に、工作機械の潮流が高速化・自動化・大量生産・コスト削減へと向かう中で、「精度を2～3桁向上させる超精密工作機械が将来必ず必要になる」と考え、超精密加工に関する研究開発・商品化への取組みを始めた。従来技術の延長では到達不可能であったため、三面すり合せ定盤、V-V滑り案内面を初めとする基礎技術確立し、空気静圧スピンドルの商品化、有限形V-V転がり案内等の開発を推進した。これらの技術は1980年頃から芽生え始めたポリゴンミラー等のダイヤモンド切削に活用され、レーザープリンタ等の普及に大きく貢献した。この後も、同氏は磁気ヘッド、非球面レンズなど新しい産業ニーズに応じて応用製品を次々と開発してきており、世界をリードする我が国の超精密加工技術の推進者と言える。さらに同氏は、大学・研究機関の超精密加工に関する研究にも積極的に協力してきており、超精密加工技術の発展を一企業の範囲を超えて国家的見地で推進した功績者でもある。

以上のように、同氏の超精密加工分野に対する工学的・工業的な貢献は極めて大であり、よってここに精密工学会賞を授与するものである。

1961年熊本大学工学部機械工学科卒業

同年 東芝機械(株)入社

2005年より東芝機械(株)精密機器事 技術顧問